

進捗状況の概要（2ページ以内）

① 大学改革の加速

本事業の開始と同時に設置された教育支援・教学 IR 室を教学マネジメントの拠点として、大学内の様々な教学情報を収集・管理し学修成果の可視化を行い、適宜教員・学生や関連部署にフィードバックするなど、大学教育の改善に努めている。平成 30 年度は、本事業で構築した Web ベースの電子シラバスによって蓄積された各授業科目の行動目標と本学の DP の関連付け情報に基づき、平成 30 年度カリキュラムで学生が修得できる能力の可視化を行い、その情報を FD・SD で授業担当教員・教務担当職員に展開した。FD・SD では、カリキュラム全体における担当授業の役割を考慮してシラバスを作成すること、学生の授業外学修を促すように e-learning 教材の作成すること、シラバスへ記載する予習・復習内容を具体的にすること等を共有した。

本学では 1～3 学年に対して、単独の科目としての限定的な知識だけではなく、知識を統合的・横断的に運用できる能力としての学力定着を図るため「総合学力試験」を実施している。試験の結果について、学生には自身の強みと弱みが分かるレーダーチャートを含む情報をフィードバックして自学自習を促進し、教員には学生の理解度等の情報をフィードバックし授業改善等を促進している。これらをフィードバックするためには、問題の科目・領域分類等の属性情報を蓄積する必要があり、それを可能にする作問システムを教育支援・教学 IR 室で新規に構築した。このように本学では、本事業を契機に設立した教育支援・教学 IR 室を中心に、ICT 等を活用した教育改革を加速させている。

② 事業の実施体制

学長のリーダーシップの下、学修成果の可視化に基づく教育内容・方法等の改善を全学的・組織的に遂行するために、学長を室長とする教育支援・教学 IR 室を新設し、専任の教職員、教育・FD に関わる大学教員（兼務教員）をメンバーとする教育支援・教学 IR 室運営委員会を置いている。兼務教員の一部は学務委員会や FD 委員会、地域連携センターにも所属しており、学務委員会、FD 委員会、地域連携センターとの円滑な連携が可能になっている。このように、本学では教育支援・教学 IR 室および教育支援・教学 IR 室運営委員会を中心に、教学マネジメント活動を推進する体制が整っている。

事業評価については、毎年度、教育支援・教学 IR 室運営委員会で作成した事業報告書を福岡歯科大学自己点検・評価委員会に提出し、点検・評価を受審している。また、3 年に一度、学識経験者や歯学・医学教育の有識者を構成員とした外部評価委員会を開催し外部評価を受審している。

③ 事業の実実施計画・継続性

本事業において、資金計画を含む計画全体に大きな変更はなく、補助期間中は事業規模を縮小せず計画通りに遂行できる。また、補助期間終了後は、事業の継続・発展に必要な経費は大学経費から支出する方針であり、継続的かつ発展的に事業を推進できる。学内の体制についても、本事業を推進している教育支援・教学 IR 室および教育支援・教学 IR 室運営委員会を存続させ、補助期間中と同様に学務委員会、FD 委員会、地域連携センター等と連携しながら本学の教学マネジメント活動を推進していく予定である。

④ 事業成果の普及

日本での伝統的医学教育であるプロセス基盤型教育では、目的・目標から方略、評価へと至る循環型のモデルを構築している。しかし、教育内容の増加により教育内容と評価内容が目標と合致しない、あるいは知識や表面的技能は評価できても、態度や深い理解に関する評価ができないといった問題が生じ、より評価に重点を置いたカリキュラム開発法が 2000 年前後から取り沙汰されるようになった。

しかし、従来のプロセス基盤型教育にも、行動目標という形で学修者の学ぶべき内容が具体的に示されているなどの利点がある。新しい医学教育に求められるものは履修ではなく修得であり、教育者の視点中心の考え方ではなく学修の主体が学生であることである。この点を踏まえ、本学が行っている学修成果の可視化では、既存のプロセス基盤型教育の利点を生かしつつ、そこにアウトカム基盤型教育の考え方を取り入れた新たなシラバスの作成を行った。これは、既存のカリキュラムのために卒業時アウトカムを設定するのではなく、学生の卒業時アウトカムの修得状況によりカリキュラムの内容や構造、教授方法などの教育改善に繋げる目的で行ったものである。この方略による学修成果の可視化やそれを教育改善に繋げる取組は、文献や学会報告等を渉猟したところ前例のない取組であり、先駆的なモデルであると考えている。本学では、これらの取組に関する進捗状況をホームページで公開するとともに、学会・シンポジウム等での講演やポスター発表、論文作成による情報公開など、取組内容を波及させる活動を継続して行っている。

⑤ 選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

入学時の情報を活用した入学後の教育の妥当性検証と教育改善について

本学では複数の受験機会と入試方法を提供することで、幅広く人材を受け入れている。平成 28 年度には、DP とともに、DP と相互の一貫性・整合性があり、内容が具体的なアドミッションポリシー・カリキュラムポリシーを策定し、平成 29 年度より運用している。このアドミッションポリシーには本学の求める入学者の資質・能力・意欲を具体的に明示した上で、入試区分、入学者選考方法、入学者選抜の基本方針についても明記している。また、入学後に学力試験（英語、数学、理科（物理、化学、生物）の 3 教科 5 科目）を実施し、入学時学力の把握に用いるとともに、平成 28 年度よりリアセック社の PROG を活用して、汎用的な能力・態度等を測定している。これらから得られる教学情報を教育支援・教学 IR 室が収集・管理と分析・運用を行い、入学者選抜の妥当性について評価・検証を行っている。併せて入学後の学業成績（各学年時 GPA、共用試験 CBT 成績、卒業試験成績、歯科医師国家試験成績等）との相関についても分析のうえ、入学後の教育の妥当性についても評価・検証を行い、教育改善活動を推進している。

低学年の総合学力試験と LMS を連動させた教育システムの構築について

本学では①で前述したように、1～3 学年に対して、知識を統合的・横断的に運用できる能力として定着させる目的で「総合学力試験」を実施しており、学生がその結果を振り返り活用出来るように、レーダーチャートと修得が不十分な項目を学生個々にフィードバックしている。修得が不十分な項目については、シラバスに準拠した記載内容とすることで、「総合学力試験」受験後にシラバスを手がかりに授業教材を振り返り学習することができる。その結果、これまで以上に自主学習が促進されることやシラバス活用機会の増加が期待される。さらに一部の科目においては、新たに構築した LMS(Moodle) で小テスト等の教材を提供しており、この教材を活用して振り返り学習をすることで、学生は学年毎に修得が必要な学修領域を効率的に修得することができる。

卒業時における質保証の取組の強化

平成 28 年度に卒業時の獲得能力を具体的に示す 6 コンピテンシ 65 コンピテンシーを策定し、これを卒業時アウトカムとして DP とした。この卒業時の獲得能力については、従来の科目の成績評価に加え、DP および学士力ごとの獲得能力として数値化する仕組みを考案しており、平成 29 年度から試験運用している。学修成果の客観的提示については、従来の成績証明に加え、DP および学士力における獲得能力を明示するコンピテンシ・コンピテンシーサプリー、学士力サプリー（仮称）を考案しており、これを卒業時に提示することで大学での学修成果を多面的・客観的に可視化することができる。卒業後の大学での学修成果の評価については、卒業生等に行っている調査結果を、教育支援・教学 IR 室で収集し、評価の把握・分析を行い、教育改善を目的に関連部署へフィードバックしている。

（テーマ：Ⅱ、大学等名：福岡歯科大学）